

ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Since 2007



写真：はざ掛けされた稲（左） 収穫の様子（右）

急に寒くない始めた海上の森も、収穫の秋を迎えています。



特集 海上の森はいま

第5回人と自然の共生国際フォーラムが開催されました 企業連携覚書を締結しました

この人! <生物多様性は“ひとつと”です> 曾我部行子さん

あいち海上の森センターの出版物

海上の森に関する刊行物を、あいち海上の森センターで販売しています。
(愛知県自治センター2階中央県民生活プラザでも購入できます)
海上の森の多様な自然との豊かな触れ合いにお役立てください。

- 「海上の森 自然観察ハンドブック」 1冊200円
- 「海上の森 秋の自然観察ガイドブック」 1冊200円
- 「海上の森 冬の自然観察ガイドブック」 1冊200円
- 「海上の森 春の自然観察ガイドブック」 1冊200円
- 「海上の森 夏の自然観察ガイドブック」 1冊250円
- 「海上の森のキノコ」 1冊200円

「海上の森の自然史」 1冊1,000円

※「海上の森」の自然環境等を専門的にまとめています。



特集 海上の森はいま

第5回人と自然の共生国際フォーラムが開催されました

「人と自然の共生国際フォーラム」は、愛知万博の理念継承事業として 2007 年から開催され、今年で第5回を迎えました。今回は「持続可能な社会を目指して、理念から行動へ、今変わる時～暮らし、生き方を語り直し、見つめ直す～」をテーマに、愛・地球博記念公園内にある地球市民交流センターで 10 月 15 日に開催しました。

また、それに先がけ 9 月 27 日から 10 月 2 日までリノモ車内広告を利用した「リノモ車内会議」、10 月 1 日にフィールドワークを実施しました。

「リノモ車内会議」は、出演者や活動団体から寄せられたフォーラムのテーマに関する意見をリノモ車内に掲示するとともに、皆様からの意見も募集し、フォーラムの議論へとつなげようと企画したものです。フォーラム当日は会場につくられた、新聞紙でできたオブジェに意見を掲示し、参加者の関心を高めることとなりました。



10 月 1 日に開催したフィールドワークは、あいち海上の森センターの見学と活動紹介の後、豊田市(旧足助町)にある豊田市里山くらし体験館「すげの里」を訪れました。薪ボイラーや小水力発電などを導入した施設の見学や竹林整備を体験し、地元で活動されている地域の方々との交流を深めました。



フォーラム当日は、地球市民交流センターの屋内広場を中心に活動団体等のポスターセッションや工作体験等も行いながら、午前中にはグループディスカッションを、午後は基調講演およびパネルディスカッションを行いました。

グループディスカッションには、事前に応募された80名の方が参加しました。始めに福島からお



越しいただいた、みちのく民俗文化研究所代表の岩崎真幸氏に現地福島の現状をお話いただき、その後、2つの分科会に分かれ、それぞれ愛知県立大学教授の稲村哲也氏、名古屋大学准教授の高野雅夫氏をファシリテーターとして、参加者の皆さんで意見交換をしました。



午後

の基調講演は、「つながりという価値：震災後にあらためて考える」と題して、総合地球環境学研究所

研究推進戦略センター教授の阿部健一氏に講演いただきました。続くパネルディスカッションは、コーディネーターに京都大学の川井秀一氏、コメンテーターにあいち海上の森センター名誉センター長のマリクリスティーン氏、基調講演をいただいた阿部氏、グループディスカッションでファシリテーターを務められた稲村氏と高野氏、ラジオパーソナリ



ティの空木マイカ氏をパネリストとして、グループディスカッションの話題も交えながら、持続可能な社会に向けて、暮らし、生き方、社会のあり方

等を議論していただきました。このパネルディスカッションでの議論を受け、参加者全員の拍手による賛同で採択された「フォーラム宣言」で、社会や暮らしを変える決意とともに、循環型社会の実現に向けて自らも具体的に行動していくことが約束されました。

※詳細につきましては、今後ホームページに掲載しますので、ぜひそちらもご覧ください。



この人!

<生物多様性は“ひとつと”です>

曾我部行子さん

「日本の里山保全活動のほとんどは、いわゆるよそ者だ。そんななかで、海上の森が地元主体で堂々と守られていくな、それは類まれな例となる。」

これは、2005年発行の、『市民参加型社会とは—愛知万博計画過程と公共圏の再創造』（有斐閣）の中に書いたわたしの文章だ。1989年秋から関わった海上の森の自然保護運動から15年目の総括と期待だった。

さて、それからさらに6年目の今、海上の森はどうなっているだろう。海上の森の筆頭地権者は愛知県民であり、市民組織の「海上の森の会」は、海上の森に思いを寄せる県民すべてに開かれる責任を負うことになった。現在「海上の森の会」会員で活動するのは、当時は万博に期待をかけていた海上下流域山口の人たち、田んぼ耕作、森林の間伐作業をする人たち、ため池修景作業にいそしむ人たち、そして環境調査を継続するわたした

ちだ。立場を異にして「海上の森」をみるまなざしは多様であり、それぞれの思いを共有する仕組みは未完成的だ。

昨年開催された生物多様性条約第10回締約国会議は、生きものの問題だと思われがちだった。そんな中、名古屋NGOセンターがつくった<生物多様性は“ひとつと”です>というワークショップ名は、生物多様性保全の本質を表現していると感じいった。

自然を知るため、調査データをとるのは基本であるが、いくらデータがあっても、自然の運命は、他人ごとでないひとごとで決まる。愛知万博のテーマであった「人と自然との共生」は、今も海上の森のテーマだ。

<プロフィール> 現在「海上の森モニタリングサイト調査の会」でのモニ1000コアサイト地域コーディネーターを担当。小学校5回転校の転勤族として、山の暮らしを体験した。海上の森に出会うまでは、理科学的な自然への興味はまったくなし。文科系自然派を自認する。



センター職員の随想ルー

かたりべのひと言

アブは危ない!?

夏の終わりから秋にかけて、海上の森内を大きなアブが飛び回っていた。ブンブンと大きな羽音を立てながら迫って来られると、びっくりする。それにアブは人を刺すらしい…。ある日、林内巡視で車を運転していると、アブが車に体当たりしてきた。車から出たらやられる!?!アブはアブない…そんな言葉が頭を過る。勇気を持って外に出たところ、予想通りアブが迫ってきた。…やられる…。ところが、私に止まったアブは刺してこなかった。暫く様子を見ても刺してこない。アブは刺さない!?!そうか、アブはアブくないんだ…。そう思い始めた矢先、センターの職員がアブに刺されるという事件が発生した。やっぱりアブは刺す!それに刺されると痛い…。アブはアブない!みんな、森を歩くときはアブに気をつけて! (H. N)

森のなかま

ウリカエデ *Acer crataegifolium*

紅葉が美しい季節になりました。紅葉といえばモミジが思い浮かびますが、海上の森のモミジといえば、ウリカエデで、いたるところで見られます。

ウリカエデは、カエデ科の植物で、樹皮がウリに似ていることから名前がつけました。モミジの仲間ですが、葉は小さな卵形か、浅く3つに裂けるのが特徴で、秋にはオレンジ色～黄色に色づきます。



雄と雌の木があり、雌の木はプロペラ状の翼果をつけます。種は熟すと回転しながら落ちてきます。



木の葉の色づき方は樹種や日当たりによって変わります。そのため、様々な種類の木が生育している海上の森の紅(黄)葉は、穏やかで温かみのある色合いでとても味わいがあります。常緑樹の緑やタカノツメの黄、ヤマハゼの赤やコナラの褐色など、色とりどりの葉を見ることができます。

企業連携覚書を締結しました



平成 23 年 10 月 22 日に、企業連携 8 社目となる覚書を株式会社伊藤園と締結しました。

当日は、海上の森の概要や森林整備について学んだ後、現地活動場所の見学をしました。

「お茶で愛知を美しく。～伊藤園 森と人の Communi Tea(コミュニティー)～」と銘打ち、人工林の間伐や、森林の働きについて学び活動していく予定です。



締結式の様子

学習の様子

現地見学の様子

展示の目玉

あいち自然ネット情報コーナー

展示室には、あいち自然ネットに加入している団体等の紹介パネルとイベント情報のコーナーがあります。

あいち自然ネット(あいち自然環境団体・施設連絡協議会)は、県内の自然環境に関する活動団体や施設のネットワークです。



海上の森以外のところでも環境活動に参加したい、または近所で自然に関するイベントは無いか?と思ったときに、玄関前のラックとあわせてのぞいてみてください。



その他のお知らせ

頭上注意!

一昨年来、海上の森を襲っているナラ枯れ被害は甚大なものです。さらに、カシノナガキクイムシによって枯れる木は大木が多く、倒木や落枝の中には高い所から折れる太径なものも含まれており、大変危険です。

センターでは昨年度に引き続き今年度も海上の森内の危険木処理に力を入れていますが、とても一気に片付けられる量ではないのが現実です。そのため各所に頭上注意の看板を設置し、海上の森を散策される方々に注意を呼びかけています。森の中に入られるときは、くれぐれも頭上にご注意ください。



コナラの枯れ枝。
落ちるととても危ない。

参加者募集 もりもり しまれ!

体験学習プログラム	開催日	定員	募集期間
☆ 森の教室 —森の中で「間伐材活用のテーブルづくり」—	12/4(日)	30名	10/4 - 11/20
♪ 森の楽校 —ふかふか冬の森てらん会— ※同時開催:「森のようちえん」 幼児と保護者対象	12/4(日)	30名 20組	10/4 - 11/20

対象:小学生以上、小学生は保護者同伴

《応募方法》 官製はがき、FAX または E-mail に ①参加希望プログラム名 ②住所 ③氏名 ④電話番号を記入し、申込期限(当日消印有効)までに下記の申込先へ。申込多数の場合は、抽選により決定し結果を通知します。

《申込み、問い合わせ先》

☆印のイベント… NPO 法人 海上の森の会 (〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1 「あいち海上の森センター」 内「海上の森の会」事務局 TEL/FAX: 0561-21-9298、E-mail: morinokai2004@kxa.biglobe.ne.jp)

♪印のイベント… あいち海上の森センター (〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1
TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841 E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp)

編集後記 涼しいを通り越して寒い季節がやってきました。人と自然の共生国際フォーラムでは、人と自然以外にも、人同士のつながりについての話が多くありました。自分と自然との関係を見つめ直しつつ、海上の森を歩いてみませんか。

編集・発行 あいち海上の森センター(ムーアカデミー)
発行日 平成 23 年 11 月 15 日
〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1
TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841
E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp
URL: <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>

